

株主通信

夏号

平成28年9月期 中間期報告
(平成27年10月1日～平成28年3月31日)

本株主通信は平成28年3月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株式会社 **日本マイクロニクス**
証券コード：6871

株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、本年4月の熊本地震で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

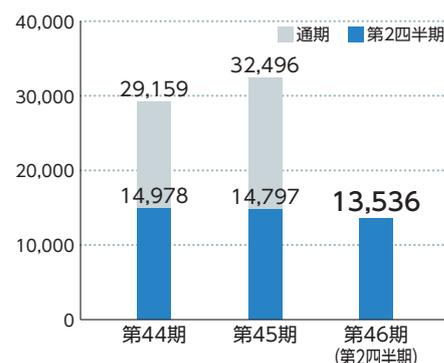
当社グループでも熊本県に出張所、大分県に大分テクノロジーラボラトリーを展開しており、熊本出張所につきましては、停電等の影響により営業活動を一時休止しましたが、現在は復旧しております。大分テクノロジーラボラトリーにつきましては、建物、設備等に大きな影響がなく、通常稼働をしております。

当社グループでは、大規模地震等の災害発生時でも中核事業の継続や早期復旧を図るため、BCP（事業継続計画）を策定し、全社員で取り組んでおり、迅速に対応することができました。今後もBCPの運用に関する指導・訓練の実施・定期的な改善を行うことで、災害に強い企業づくりを推進していきます。

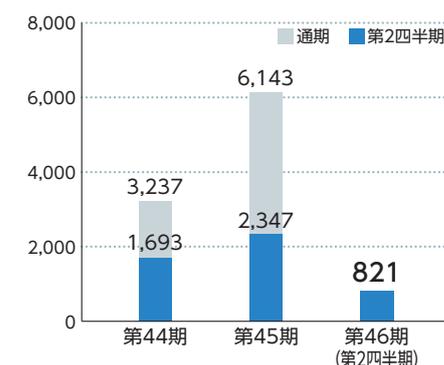
株主の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
長谷川 正義

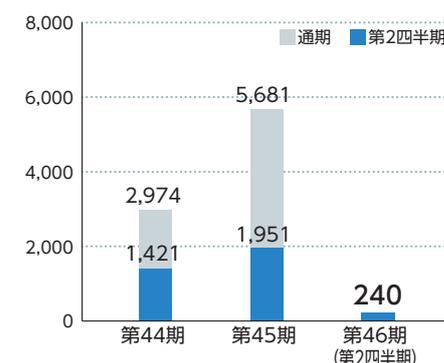
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)



新たな成長を見据え、事業基盤の強化・拡充に 取り組んでいきます。

Q 第46期第2四半期累計期間の経営環境と連結業績をどのように評価していますか。

A 第46期第2四半期累計期間（2015年10月～2016年3月）の経営環境はやや軟調に推移しました。半導体市場においては、スマートフォンやタブレット端末向けの成長鈍化や微細化ペースの鈍化による設備更新サイクルの長期化が見られ、例年の季節的要因による調整等もあり不安定な状況となりました。FPD市場は、主に中国での設備投資が積極的に行われたことから、パネル価格の下落や供給過剰懸念が強まりました。

こうした厳しい状況のなか、当社グループは、主力のプローブカードにおいて、CMOSイメージセンサーやアプリケーションプロセッサなどロジック向け製品の拡販と新製品の評価促進に取り組みました。また、TE事業では、半導体検査装置、プローブユニット及び自動光学検査装置（AOI）において積極的なビジネス展開を図りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高13,536百万円（前年同期比8.5%減）、営業利益821百万円（前年同期比65.0%減）、経常利益783百万円（前年同期比68.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益240百万円（前年同期比87.7%減）となりました。

当上半期の連結業績は前年同期より減収減益となりましたが、第44期、第45期の構造改革を経て、事業基盤はより一層強固なものとなりつつあります。TE



事業の収益性も改善し、当社グループの事業構造はわれわれが目指すかたちへとまた一歩近づきました。

Q 中期経営計画『Challenge17』の進捗状況とこれまでの成果を教えてください。

A 中期経営計画『Challenge17』は、当第2四半期末でちょうど折り返し地点を迎えました。本計画では、事業構造改革によって立て直した企業体質をより強靱化すると同時に、新たな成長ステップを確実に踏むための地盤づくりを行っています。

計画前半においては、生産体制・製品開発・他社との協業など、様々な面で成果があったと考えております。生産体制の面では、大量注文に迅速かつ的確に 대응する盤石な開発・生産システムを確立したことで、第45期にお客様からの旺盛な需要を取り込むことができ、生産システムの有効性を検証することができました。製品面では、メモリ向けプローブカードのトップブランドとして製品供給の安定化に努めるとともに、ロジック向け製品の拡充を図りました。

TE事業では、GPM社への事業移管が計画通り進んだことで、利益が安定化したことに加え、協業により新たな市場を開拓することが可能となりました。また半導体テストなど一層の成長が期待できる製品分野に注力できる体制が整いました。

Q 第46期下半期の見通しと今後の投資計画をお聞かせください。

A 第46期下期（2016年4月～9月）の市場環境はやや低調な状況で推移するものと予測しています。当社としては下期後半に需要が盛り返してくることを見込んで事業計画を立てていますが、世界経済の先行きは依然として不透明であり、決して予断を許しません。

しかし、こうした状況においても、将来を見据えた研究開発投資は当初の計画通り、売上高の10%程度を目処に着実に進めていく方針です。

研究開発投資に関しては、狭ピッチ化や多ピン化などプローブカードに対する顧客ニーズの高度化に的確に対応する一方、ロジック向け製品のラインナップ拡充に注力します。TE事業では半導体テストの開発に取り組むとともに、プローブユニットや自動光学検査装置（AOI）の性能向上に経営資源を投入します。

設備投資としては、青森工場で設備更新の時期を迎えているものがあることに加え、最先端の製品を生み出す製造設備効率化に向け、全国の生産拠点で設備・機器の見直しを行う予定です。

マーケットリーダーであるプローブカードにおいて競争力の強化とシェアの拡大に努め、同時にTE事業で半導体テストを基軸とした安定収益モデルを確立することによって、当社グループは持続的な成長を実現できるものと考えています。

また、二次電池battenice®については、引き続き、大学など外部の研究機関と協同で電池性能向上に取り組むと同時に、製造プロセスの最適化に向けて試作開発ラインの改善・調整を行っていきます。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 当社グループが展開するプローブカードや検査装置は、エレクトロニクス製品の進化と産業社会の発展に必要な不可欠なものです。時代がどのように変化しようとも、電子計測技術を駆使した各種テストに対する需要は減少することは



ありません。AI（人工知能）や自動運転など科学技術の発展とともに、新たなテストニーズが喚起されるなか、当社グループは高い技術力と独自の総合管理システム（QDCCSS：クダックス）、そして競争優位の源泉である人材力を結集し、更なる成長を目指していきます。

株主の皆様への利益還元につきましては、新たな事業展開や将来を見据えた体制づくりに努めながら、業績に見合った安定的な配当を維持することで、株主価値の最大化を追求してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

TOPICS 「SEMICON CHINA 2016」に出展いたしました。

2016年3月15日～17日に、上海にて「SEMICON CHINA 2016」が開催されました。中国では、昨年末に政府が半導体産業の積極的支援を打ち出したことで、今後の大幅な需要拡大が見込まれております。

当社も子会社MMKの知名度アップと、MEMS-SPを始めとするロジック製品拡販のため出展し、新規顧客からの引き合いを得るなど、満足のいく出展成果を得ることができました。

今後も引き続き中国での新たな需要を取り込むため、意欲的に営業活動を展開してまいります。

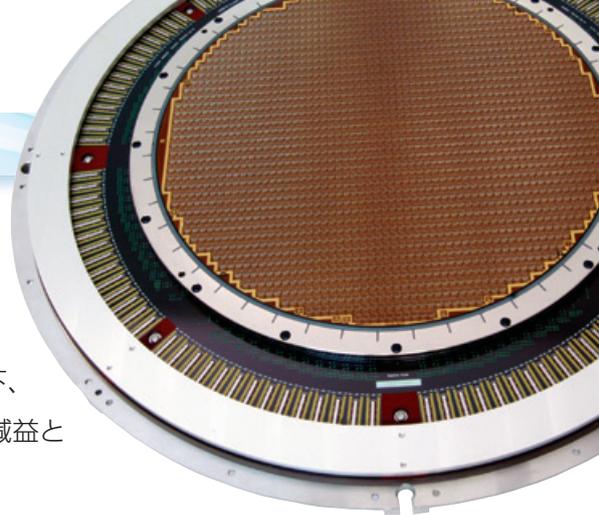


営業の概況

プローブカード事業

プローブカードは、スマートフォンやタブレット端末向けモバイルDRAM用アドバンスプローブカードの需要が市況の季節的要因から低調に推移しました。利益面におきましては、売上高減少に伴う稼働率の低下、及び将来のための積極的な開発投資を継続して行った結果、前年同期より減益となりました。

この結果、売上高は11,437百万円(前年同期比10.6%減)、セグメント利益は1,807百万円(前年同期比46.0%減)となりました。

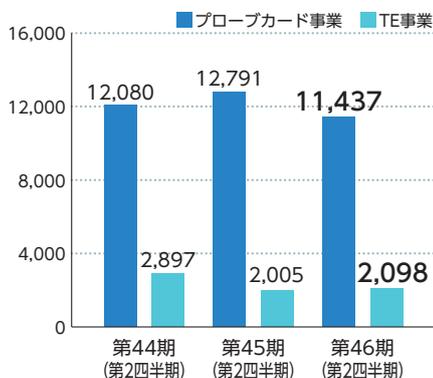


TE事業

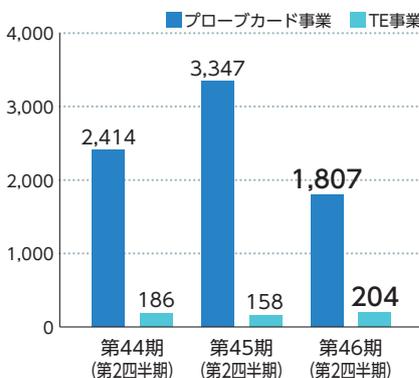
半導体検査装置及びプローブユニットは、受注・売上が堅調でしたが、LCD検査装置は、事業提携に伴う事業移管が当初計画通り進んだため、LCDプローバの販売は、減少いたしました。利益面におきましては、当初計画通り半導体関連装置へシフトした結果、利益は安定化いたしました。

この結果、売上高は2,098百万円(前年同期比4.6%増)、セグメント利益は、204百万円(前年同期比29.4%増)となりました。

セグメント別売上高(百万円)



セグメント別営業利益(百万円)



地域別売上高構成比(百万円)



■ 日本	3,834 (28.3%)
■ 韓国	3,863 (28.5%)
■ 台湾	3,608 (26.7%)
■ その他アジア	1,067 (7.9%)
■ 欧州・米国	1,164 (8.6%)

通期業績予想 (平成28年5月10日修正)

売上高

28,500 百万円

営業利益

1,800 百万円

親会社株主に帰属する当期純利益

1,100 百万円

1株当たり配当金

15 円

※当社は、平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
※記念配当5円(中額配当)を含みます。

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)

株式会社 **日本マイクロニクス**
MICRONICS JAPAN CO., LTD.

本社 〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
HPアドレス <http://www.mjc.co.jp/>